



術



化



Art
Culture
Human

03

声楽家

三部 安紀子



舞台写真は、北海道二期会創立35周年記念「ドン・ジョヴァンニ」(2000.2.25~26)より

声楽家。みべ音楽院院長。武蔵野音楽大学卒業後、ローマ・サンタチェチーリア音楽院へ留学。声楽家として各地でリサイタルを開催し、優れた歌唱が称賛されている。1987年には、みべ音楽院を設立。次世代の育成に積極的に取り組むほか、北海道二期会の芸術監督を始め芸術全般の各種委員も務めるなど、北海道における文化の発展に大きく貢献している。

次世代への思い 声楽家としての経験がつなぐ

「本当に苦労したんですよ!当時若い頃はコピー機もなく写譜はすべて自分で手書きで、演奏旅行する際には100曲以上の譜面を写譜して挑んでいましたよ!」そう言って笑う三部さんが札幌で立ち上げた「みべ音楽院」は今年で38年を迎えた。声楽家を目指した三部さんは東京で音楽学校を卒業後、今と違いほとんど情報がない中、本場の声楽を学ぶためローマ、ウィーン、ヴィルツブルグで研鑽。

その後、東京へ拠点を移し声楽家として活躍してきた三部さんは、自身が切り開いてきた道を次世代へとつなげるべく「若い人たちのパイプ役になろう」と決意。故郷の札幌へと移住し「みべ音楽院」を設立。生徒たちが少しずつ増え、ドイツやニューヨーク、ミラノなど世界へ羽ばたく素晴らしい人材も輩出してきた。「人に教えるのはお医者様と同じだと思っていて。治っていく(良くなっていく)様子を見るのが本当に嬉しくて。そうやってこの世界で活躍していく様子を見ることが本当に大好きなんです。」

三部さんの活躍は人材育成に留まらない。声楽家団体である北海道二期会では芸術監督を務め声楽家たちの活躍する場を増やすとともに、オペラなどの舞台芸術を市民に届ける活動を行っている。

北海道二期会は60周年を迎え、記念公演としてヨハン・シュトラウス2世による喜歌劇『こうもり』を11月に上演する。会場の教文大ホールは三部さんにとっては2000年にスペインの劇場から9tもの大道具を輸入して『ドン・ジョバンニ』の公演を行った思い出深い会場であり「オペラで生の声を届けられる最良のステージ」として大切な場所だ。

様々な文化団体に重要な役割を担い、札幌の文化芸術に欠かせない存在となっている三部さん。「自分の街に誇りが持てるかは芸術文化がとても大事。子どもたちには色々な文化を体験してもらいたいです。」という三部さんの多岐に渡る活動に今後も目が離せない。